

2021 年度第 4 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2021 年 9 月 21 日（火） 午後 8 時～午後 10 時
- 2 方 法：Zoom アプリを媒介にしての遠隔会議
- 3 議決権のある理事：9 名
出席者：座間直壯、清田義昭、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、保坂一房、堀 渡
欠席者：手嶋孝典、堀越洋一郎
事務局員の参加者：雨谷逸枝

(1) 第 1 号議案 会員の動向について【報告】

- ・2021 年 9 月 1 日現在
正会員 81 名 2 団体 賛助会員 36 名 1 団体、計 117 名 3 団体（合計 120）
- ・前回（7 月）の理事会報告以後、個人正会員 1 名が賛助会員に変更（会員数の合計は変わらず）。

(2) 第 2 号議案 TAMALAS 一括処理システムの活用状況について【報告・討議】

- ・前回から継続した話題の報告。府中市で自動出納書庫に収蔵中の大量の蔵書の見直しと選別、書庫の空きスペースを生み出すことが課題となり、その作業を進める基礎情報を得るため、昨年末以来、TAMALAS 一括処理システムが継続的に使われた。
- ・TAMALAS を使って約 527, 500 冊という書庫の蔵書の、多摩地域の市町村立図書館、都立図書館、国立国会図書館の所蔵状況が点検され、当初、TAMALAS に求めた作業は終わったという。
- ・同市の担当職員、笹川美季氏が 7 月 9 日の共同研究定例会に出席され、報告してくれた。
- ・府中市は、同市で規定する「実用書」以外は、同市での所蔵タイトルは基本的には減らさない方針（「市内での複本は除籍するが、市で最後の一冊は残す」）だが、書庫の空き容量が限界に近づきつつあること、現在の PFI 契約が満期に近づき、次期契約のための検討が進んでいる事情から、この大規模な作業計画を立てたという。
- ・TAMALAS 一括処理システムがあることによって、総括的な書庫点検をするという方針が立てられた。当初はうまく動かずに懸念したが、多摩デポとの打ち合わせや（株）カーリルとの連絡・調整により、その後順調に動き、手間もかからず使いやすかったと担当者には高く評価された。
- ・得られた他館の所蔵状況データを参考にしながら、各部門の担当者による除籍の判断、該当蔵書の出納、除籍作業を行うのはこれからで、それも大変な長い作業が予想されるという。
- ・また府中市は、除籍することになる蔵書の内、都立図書館や国立国会図書館で未所蔵なものは、それらの館に寄贈することを考えているとのことで、この点でも、多摩デポがこの間の説明してきた考え方をくんでくれている。
- ・TAMALAS を開発・提供し活用を勧める多摩デポにとっても、これまでにない大量の作業量で、よい経験になった（これまで経験した作業量では、提供した初期に活用してくれた国分寺市の 1 万冊程度の検索が多いほう）。
- ・府中市が今回、どういう書庫点検・圧縮計画を立案し、その中でどう TAMALAS 一括処理システムを使いこなし、どういうデータ取得を行ったか、今後行なう（大量の）現物の点検や抜き取り作業の考え方や作業過程、それらが図書館現場で共有されることは、（多摩地域に限らず）

各図書館の蔵書保存・管理の大きなヒントになるのではないかと。

- ・多摩デポとしても、大事な経験として活かし、伝える必要があると考える。
- ・『多摩デポ通信』第58号には笹川氏に寄稿していただいたが、(株)カーリルにも協力してもらい館長会の除籍資料担当者会で事例報告の会が持つことができないか、あるいは多摩デポ講座を開催することができないか、打診中。
- ・なお、TAMALAS 一括処理システムについて、図書館から申請を受けて、ID・パスワードを発行したのは依然 10 市。最近では府中市以外ではどれだけ使われているは不明。
- ・TAMALAS 個別処理システムの方は、各自自治体で日常的に使われている。

(3) 第3号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・討議】

- ・この間、たましん歴史資料室が所蔵する約 24,000 冊の図書資料のうち、(株)カーリルが機械的に付番した ISBN (国際標準図書番号) 約 1,000 件のデータの検証作業を行ってきた。
- ・事務局員および協力者 (延べ 16 名) で手分けをして、1 件 1 件、該当する図書に正しく付番されたか、誤った図書に付番されていないか、誤付番だった場合の傾向性などを調査した。
- ・一方で、付番されなかった約 23,000 件のうち、実際には ISBN がある資料に付番されなかった (付番漏れ) はないかの調査も行ってきた。
- ・集まった結果のデータ整理を齊藤が行い、まとめたエクセルデータ 2 本を 8 月 31 日に、ML、(株)カーリル、歴史資料室に送った。次回の定例会で検討することになっている。
- ・事務局よりこうした現状を報告し、討議した。
- ・歴史資料室の蔵書は市販前に作られた内部出版物や私家版等の異本も多く、<機械的な推論による付番>の有効性にとって、開発者(株)カーリルには貴重なテストになったのではないかと。
- ・付番の結果を手分けして実際に点検したが、こうした作業は多くの者にとって初めての経験であり、その結果も大変興味深いものだった。
- ・結論は定例会の議論を待つが、かなりの精度で適切に付番されていたと言えるのではないかと。ただしシステムはさらに改良する必要があるし、得られたデータを活用するには、今後も検証は欠かせない。
- ・歴史資料室の蔵書には図書の他に、雑誌、地図、写真、パンフレット、絵葉書、ポスター等があり、図書の中でも ISBN が付与できた市販図書の割合は少ない。しかし、付加できる資料には ISBN を付加できれば、歴史資料室の蔵書も TAMALAS に組み込んで検索することができるようになる。
 - たましん歴史資料室の方では受け取ったデータを点検した後、各書誌の書名欄 ISBN を付記した。
- ・このテストを通じて、多摩地域の各図書館で、まだ ISBN が付与できていない蔵書への付与の可能性を考えていくことができる。
- ・次の問題だが、多摩デポはこの間、ISBN のない図書館資料の同定識別の方法を研究してきている。それは TAMALAS のあとの、「多摩デポ統合検索システム」を改良し公開していくため

の

研究課題として続いている。

- ・その一つの方策として、歴史資料室が網羅的に収集・所蔵している、多摩地域の広域の歴史資料の目録データを活用できないか。各自自治体の図書館の地域資料の書誌割れによる同定識別の困難を容易にするためのツールに使うことができないか、研究を続けたい。

(4) 第4号議案 多摩デポ講座等の企画について【報告・討議】

- ・新型コロナウイルス感染症の流行前に企画した、リアルに集まる講座ができないままになっている。
 - ・都立中央図書館の書庫を見学し、あわせて都立の現在の保存方針と現在の実態を聞く会の企画が、昨年3月の開催直前に見送りになったままになっている。
 - ・オープンにあわせて予定した都立公文書館の見学会も実現できていない。
 - ・全公図（全国公共図書館協議会）が行った、県域ごとの共同保存の全国実態調査について、再度、取り上げる講座も宿題になっており、前回の講師の方に相談中。
- ・コロナ禍でも講座をやる方法や企画を積極的に考えていきたい。
 - ・「多摩デポ講座」ではないが、6月に一度開催したZoomによる会員の意見交換会を（現役職員や一般会員が参加できるように工夫して）いずれ行いたい。
 - ・（リアルに集まらないでZoomで行う企画はいろいろ考えられるが）まず、募集対象を多

摩

地域の現役の図書館職員に限定して、職員層に多摩デポをつなぐ講座を実現していきたい。

- ・職員にとって身近で、仕事に生かすことができ、参加しやすいテーマの多摩デポ実践講

座。

多摩デポへの現役職員の協力者、理解者、会員を増やす狙いもある。

- ・事務局から提案した複数の企画案に基づいて議論した。
- ・実践講座は面白くタメになるものでなければならない。準備をきちんとやる必要がある。
- ・12月までには第1回を行い、継続的な事業として発足させていきたい。
- ・企画案の一つは館長協議会の除籍資料担当者会の企画としても考えられないかを、担当館

長

に打診中。

- 企画の細部・参加者集めなどの課題は残っているがこの形で始めてみる。詳細は事務局でさらに詰めて提案する。

(5) 第5号議案 『多摩デポ通信』第58号について【報告・討議】

- ・事務局から、予定記事を組んだ版下案を資料配布し議論した。
- ・第1面は、Zoomを使った図書職員向け「多摩デポ実践講座」を年内開催を目途に始めるとい

う
予告記事で、企画としては今年度の総会でも提案されていたもの。『通信』の夏の発行が遅れており、提案できる新規事業は現在は他にないので、このような内容で今号に掲載したい。

- 第4号議案で講座の実施は承認。予定記事の小見出しなどの若干の変更の上で、内容に

ついては了承。

- 実践講座だけを議題に事務局会議を続けて企画をさらに詰め、職員層や講師などの根回し

を含め準備を進めて理事会への報告後、単独で広報を行う。

- ・他の予定記事は
 - ・6月13日のZoom意見交換会の報告
 - ・(株)カーリルとの共同研究定例会報告

- ・たましん歴史資料室の蔵書データへの ISBN の機械推論的付与、その検証作業
 - ・TAMALAS 一括処理システムの活用事例（府中市の自動出納書庫内の大量蔵書の点検）
 - ・新理事二人の所信表明
 - ・津野海太郎氏の顧問就任
 - ・会費納入のゆうちょ銀行での現金の振込の際、追加料金がかかるようになることのお知らせ
- 理事会として了承した。

(6) 情報交換

- ・事務局からは特になし

【多摩デポ関係記事】

- ・時になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 第 55 回定例会 10 月 1 日（金）午後 8 時～、 Zoom を使って
- ★ 事務局会議(2021 年度第 7 回) 月 日（ ）午後 8 時～、Zoom を使って
- ★ 次回理事会 第 5 回理事会 11 月 16 日（火）午後 8 時～、Zoom を使って

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として 2 名を選任することを諮り、清田義昭理事、堀 渡理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2021 年 9 月 21 日

議長

議事録署名人

議事録署名人